

2018 年度（2019 年 3 月期）決算説明会

2019 年 5 月 28 日（火）10：00-11：30 S M B C 日興証券 新丸の内ビルディング

出席者：21 名

### 主な質疑・応答

回答者：

代表取締役社長

福井 正一

専務取締役

奥平 武則

常務取締役

山田 勝重

- 1) 豆製品の売上が低迷から脱却できておらず、健康訴求のマーケティングが必ずしも消費者に受け入れられていないのではと感じます。豆製品の浮上策について考え方を教えてください。

煮豆については、ターゲット層の若返りが必要であると考えています。子供が食べたくなくなるような新製品の開発に加え、業務用からのアプローチでお弁当や給食などで若年層が煮豆を口にする機会を増やしていきます。一方で、サラダのトッピングなどに使える蒸し豆の売上は 2 桁伸長しており、甘くない豆の製品開発も進めています。

- 2) 「ふりふり塩こんぶ」の関東エリアにおける露出が少なく感じます。マーケティング戦略の考え方と進捗について教えてください。

「ふりふり塩こんぶ」の TVCM 放映はまだ近畿エリアのみですが、更なる営業努力により小売店でのお取り扱いを増やした上で、関東エリアにおいても TVCM 放映など露出を増やすとともに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを通じて世界に対しても塩こんぶを売り込んでいきたいと考えています。一方で、最近では業務用の大容量タイプの小売店におけるお取り扱いが増えており、ご飯のお供としてだけでなく調味料用途の訴求に手ごたえを感じています。

- 3) 2019 年度（2020 年 3 月期）の設備投資計画 84 億円（決算説明会資料 P.26）の主な内訳を教えてください。また、減価償却負担の増加が懸念されますが、利益に与える影響についても教えてください。

成長投資 50 億円の主なものは、関東工場の煮豆新棟、開発本部の次世代投資、鳴尾工場のヨーグルト生産設備、「おぼんざい小鉢」生産ライン増設、ロボット技術開発です。

合理化投資 14 億円の主なものは、自動化による省人化に係る設備投資です。

更新投資 19 億円の主なものは、工場建物設備の老朽化対策に係る設備投資です。

これらの設備投資により減価償却費は増加する見込みですが、生産性の改善と成長投資による売上増で吸収し、増益を目指します。

以上